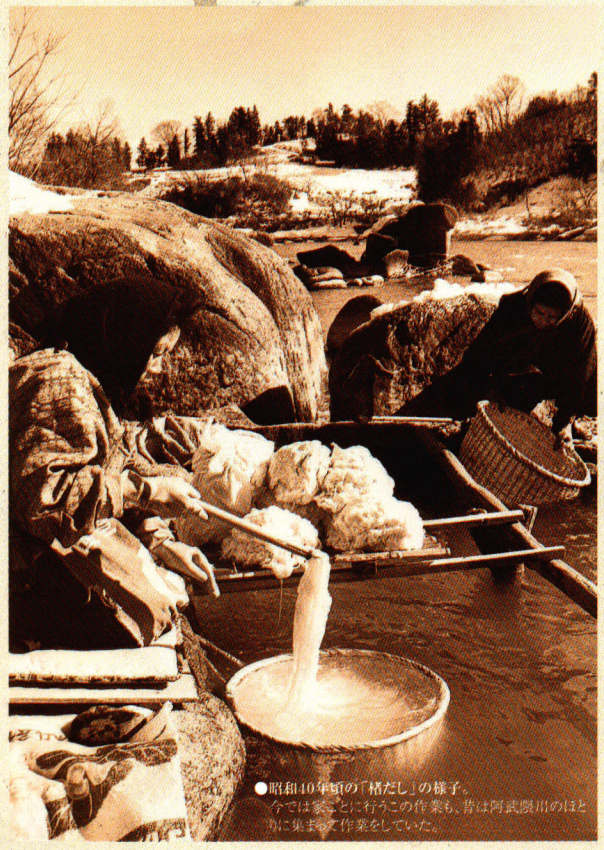
世界の芸術家たちに愛された和紙。

日本の和紙は欧米でも高い評価を受けてきた。江戸時代に訪れたシーボルト、ケンペルなど欧米の学者たちが、その素晴らしさを賞賛している。またレンブラントやピカソも、日本から送られて来た漆器を包んでいた美しい和紙に驚嘆。版画などに求めて使っている。変質しにくく、○種類以上の和紙が出品され、来場者の人気を博している。以来、日本の和紙は世界中の著名なデザイナーたちによって、インテリアや照明素材として広く活用されている。

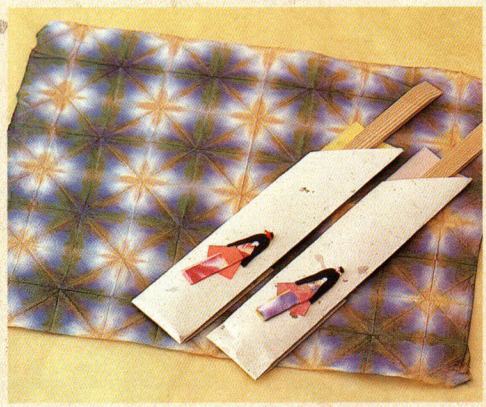


●昭和40年頃の「楮だし」の様子。
今では家ごとに行うこの作業も、昔は阿武隈川のほとりに集まって作業をしていた。

くく、長い間の保存にも変色せずに耐えられる強さは欧米人にとっても驚きであったのだ。

明治になり、開国されてある程度自由に往来が認められると、和紙の評価はいっそう高まった。一八六二年にロンドンで開かれた万国博覧会では、初代駐日イギリス公使オールコックが集めた七

ひっそりと受け継がれる上川崎和紙の伝統。



上川崎の集落は大正から昭和の初期までは、冬場の農閑期に紙を漉く農家が三百軒以上あった東北最大の和紙の里だった。しかし洋紙の機械技術が進むと共に、印刷技術などの関連産業の近代化につれ、和紙の需要は激減。いまではわずかに数軒がひっそりとその伝統を守り続けているだけになってしまった。しかし、和紙の持つあたたかみや素朴な質感に魅せられる人も多く、和紙を利用したオリジナリティ豊かな商品の開発も各方面で行われるようになっている。